

コマツナ新品種

『CM-4』の特性と栽培の要点

雪印種苗(株) 千葉研究農場

作物研究室 本多 範久

1 はじめに

コマツナは、もともと東京のお雑煮に欠かせない野菜として、古くから東京周辺で栽培されてきましたが、近年、その軟らかく、くせのない食味から料理の用途が広がり、高ビタミン、高ミネラルの緑黄色野菜として、関東地方はもとより、全国各地でも栽培されています。作付面積は年々増加傾向をたどり、収穫量も5万tを大きく超えるなど、全国的に周年にわたって栽培される品目に成長しました。

しかし、近年、コマツナが連作される中、各地で土壤病害が問題となってきております。中でも、フザリウム菌による萎黄病は、株の立枯れを引き起こすなど、コマツナ栽培において著しい被害をもたらしています。

昨年より 本格販売した夏播きコマツナ「浜ちゃん(CM-1)」は、関東地域および関西地域などの夏播き産地において収量性や葉色、在圃性の良さを評価して頂いておりますが、萎黄病に対しては中程度の抵抗性しかないため、萎黄病汚染地域からは、より本病に強い品種が求められていました。昨年より、萎黄病激発地域を中心に試作を行ってまいりました「CM-4」は、汚染土壌における栽培でも発病することがなく萎黄病に対し強い抵抗性を示し、また、夏コマツナとして葉色、株張り、収量性に優れ、試作結果も良好でした。

ここでは、今春より販売を開始するコマツナ新品種CM-4(品種名:

スーちゃん)の特性並びに栽培の要点についてご紹介し、今後の栽培の参考にして頂ければ幸いです。

2 新品種『CM-4』の特性

(表1,写真1~3)

1) 耐暑・耐病性で栽培が容易

～ ‘萎黄病汚染地域’で能力を発揮!～

萎黄病が発生する圃場での5~9月栽培では、何よりも萎黄病に安定して強い品種が望まれます。本種は萎黄病に対して強度の抵抗性をもっており、汚染圃場でも安心して栽培できます。

耐暑性が強く、高温乾燥期でも新葉にアントシアンの発生がありません。高温による葉面の縮みや葉縁の巻きがなく、肉厚でしおれにくいいため品質良好です。また、極立性で倒伏に強く、葉液が葉の裏まで無駄なくかかるため、虫害防除が比較

表1 コマツナ品種比較試験(露地栽培)

雪印種苗 千葉研究農場

品種名	調査日 (月/日)(9-1)	草姿 葉形	葉色 (9-1)	葉面 (9-1)	株張り (9-1)	葉柄の太さ (9-1)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉数 (枚)	1株重 (g)
平成12年4月27日播種										
CM-4	5/29	7.0	7.0	7.0	7.0	6.0	31.5	10.8	7.0	56.3
他社Hi	5/29	7.0	6.5	6.5	6.0	5.5	30.8	9.7	8.0	46.3
他社Ha	5/29	7.0	6.0	6.0	7.0	6.0	34.0	11.7	6.7	54.0
平成13年8月10日播種										
CM-4	9/1	7.0	7.0	7.0	7.0	6.0	23.8	9.5	6.6	26.0
他社Hi	9/1	7.0	7.0	6.5	6.0	5.5	25.3	9.0	6.2	23.0
他社Ha	8/31	7.0	6.0	6.5	6.0	6.0	24.0	10.6	5.8	24.0
平成12年9月21日播種										
CM-4	11/6	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	29.9	10.1	7.4	41.0
他社Hi	11/6	7.0	6.5	6.5	6.0	6.0	25.8	8.9	6.4	25.0
他社Ha	11/6	7.0	6.0	7.0	6.0	6.0	31.5	11.2	6.2	39.0
評点基準	草姿: 9(立性)~1(開張性) 葉形: 丸葉 袴葉 葉色: 9(濃緑色)~1(淡緑色) 葉面: 9(滑面)~1(縮面) 株張り: 9(大)~1(小) 葉柄の太さ: 9(太)~1(細)									



写真1 『CM-4』収穫物 株張り良く、荷姿がきれいなコマツナ。株張り良く、荷姿がきれいなコマツナは、収穫しやすい品種です。

「コマツナ萎黄病」とは

1987年に新しく発生したコマツナ萎黄病は、防除の困難な土壌病害として、東京地区を始めとするコマツナ産地で大きな被害をもたらしています。本病は、フザリウム属菌（かび）によって起こる病害で、コマツナのほかにキャベツなど、アブラナ科野菜に寄生します。この菌の発育温度は7～35℃で、28℃前後が適温といわれています。この病原菌は厚膜胞子と呼ばれる耐久器官で畑土壌に残存し、その期間は数年以上にもなります。

コマツナが作付されると、根の先端や傷口から感染し、導管のなかで繁殖します。このため、水分の上昇が抑えられ、次第に萎縮・枯死してしまいます。発病葉は、葉脈が黄変し、葉柄の導管が褐色に変わります(写真4)。発病株は生育が止まり、下葉から枯れあがり、病勢が進むと枯死します。防除策としては、土壌くん蒸剤による土壌消毒が効果的ですが、近年、圃場周辺の宅地化が進む中、周辺環境への配慮から、くん蒸剤の使用が困難になっています。そのため、耐病性品種利用によるコマツナ萎黄病の耕種的防除が中心となっています。

2) 高温期の栽培でも生育はじっくり

～夏期の雨よけ栽培に最適！～

徒長しやすい高温期の栽培でも、生育がゆるやかで収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。特

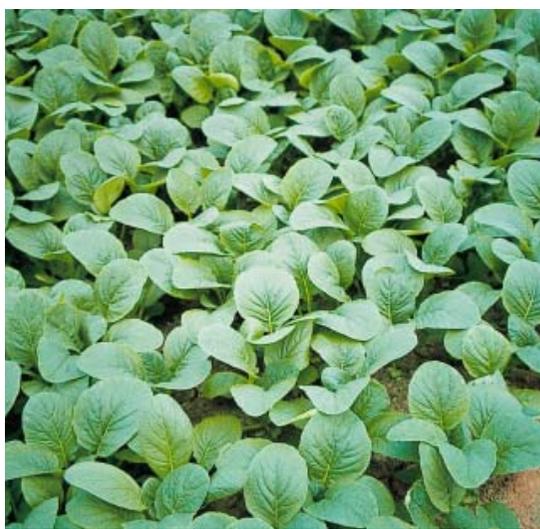


写真2 7月播きハウス栽培 極立性で収穫作業が容易なコマツナ。極立性で収穫作業が容易なコマツナは、収穫適期前後の生育が緩やかなので、従来の品種より収穫適期の幅が広く、夏場でも比較的余裕をもって出荷ができます。

広葉、大葉で葉肉が厚く、葉数が多いので収量があがります。また、夏季の高温期でも節間伸長や胚軸の徒長が極めて少なく倒伏に強いいため、株がまっすぐな良品が得られます。

3) 収穫・調整・結束作業が容易

草姿

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本種は極立性で収穫時の葉のからまりがなく、葉柄はやや太めで折れにくいいため、収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易なため、調整・結束の能率があがります。

葉形・葉面

やや欠刻袴のある丸長葉種です。平滑葉で葉縁の巻き(カップリング)がないため手にかからず、葉の破れがありません。

細根量

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

4) 荷姿がきれい！

葉は極めて濃緑で照りがあり、高温条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉色は葉身のみ

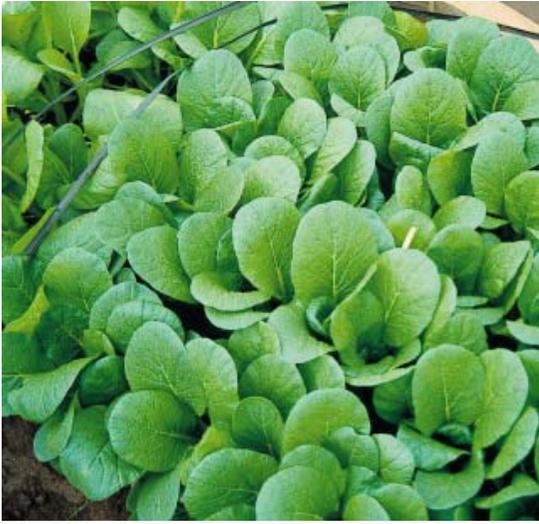


写真3 6月播き露地栽培 極濃緑・滑面で品質良好



写真4 「コマツナ萎黄病」罹病株

最適播種期：3月下旬～10月上旬：露地
3月中旬～10月中旬：ハウス

2) 東北、冷涼地

最適播種期：4月中旬～8月下旬：露地
4月上旬～9月上旬：ハウス

4 栽培上の注意点

1) 夏播き栽培

ハウスの栽植密度は条間15～20cm，株間3～5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので，適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

高温期の肥料のやりすぎは，葉身と葉柄のバランスをくずすので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg，リン酸15～20kg，カリ15kgが目安ですが，ハウスや高温期の栽培では，それぞれを8～10kg程度に減量します。

高温期になるほどコナガやキスジノミハムシの食害が目立ってきます。露地栽培では播種直後から防虫ネット，寒冷紗のべたがけやトンネル被覆を行い，成虫の飛来を防ぎます。防虫ネットは，うね幅より少し大きめに被覆し，葉が内側からネットにさわらないようにすること，収穫4～5日前には葉の着色，および株を少し硬化させるため，ネットを取り除くことが良品生産につながります。

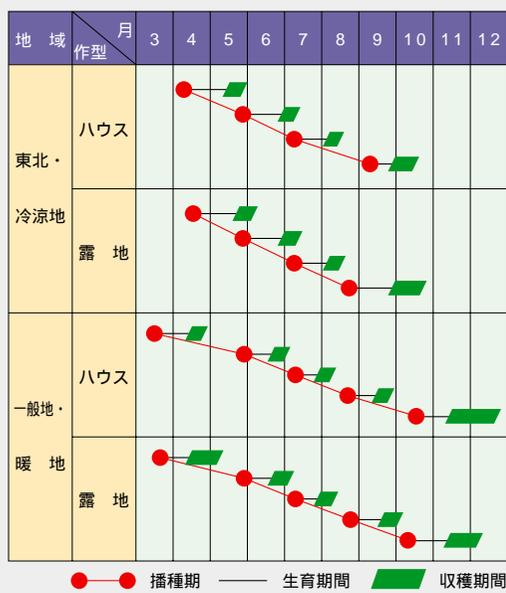


図1 「CM-4」の適応作型

ならず，葉柄・株元まで濃緑で商品性が高く，夏場でも色褪せにくい品種です。胚軸は短く，根の曲がり極めて少ないため株元がきれいです。

葉数が多く，茎葉のしまりが良いため結束した時に腰部がくびれず，葉先がそろうので荷姿がきれいです。また，葉肉が厚く，日持ち性が抜群で，根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。

3 適応地域および作型 (図1)

1) 一般地・暖地

夏期の栽培では生育期間が短くなり、農薬時期等によっては農薬残留の恐れもありますので、農薬の散布には十分注意が必要です。散布にあたっては、低濃度で薬液量を増やし、葉裏まで十分農薬がかかるようにすることが効果的です。

「浜ちゃん(CM-1)」と『CM-4』の使い分け

浜ちゃん、CM-4ともに春～秋播きの夏コマツナですが、夏場の株張り、収量性は浜ちゃんの方が上であり、萎黄病の問題のない圃場では収穫・調整作業も行いやすい浜ちゃんが好適です。萎黄病が発生しやすい圃場では耐暑性・耐病性に優れるCM-4をご利用下さい。

2) 春・秋播き栽培

露地の3月上～中旬播き、10月上～中旬播きはトンネル栽培を基本とします(一般地標準)。低温期の栽培では生育が極めて遅くなり、株が張りすぎたり、葉柄と葉身のバランスが崩れやすくなります。また、葉色が濃くなりすぎたり、根が太く抜き取り効率が低下します。本種の特性を生かすには春から秋までの温暖な時期に栽培してください。

春のハウス栽培では生育初期に換気不足で軟弱に育てると、胚軸が少し伸びることがあるので注

意が必要です。

本種は萎黄病には強い抵抗性を示しますが、他の病害(べと病など)については中程度の耐病性のため、生育初期に予防剤を用いて防除に努めます。

5 むすび

コマツナは暑さ、寒さに強く、生育期間が短いため、比較的作りやすい作物ですが、周年にわたり毎日欠かさず一定量を出荷するためには、高い計画性と技術を要する作物と言えます。また、コマツナは、高温期や低温期など時期によって草姿、収量性が異なるため、有利なコマツナ経営をしていく上で、その時期に適した品種を選択していくことが極めて重要になります。

今回、ご紹介した**萎黄病抵抗性夏コマツナ「CM-4」**は、高温期の栽培でも草姿のバランスが良く、株張りに優れた多収タイプのコマツナです。しかも、収穫前後に生育がゆっくりとなるため、収穫期間が長く、夏どり栽培に最適な品種です。本種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。



SNOW BRAND
春～夏播きハウレンソウ

サンライズ

- 高温期の栽培でも生育が緩やかで収穫期幅が長く、株張りが良い。
- 葉先が尖り、1～2段の欠刻が入る剣葉。
- 葉面の縮みが極めて少ない。
- 濃緑色で照りがあり、品質が優れる。
- 草姿は立性で収穫・出荷調整が容易。
- 晩抽性で早春～夏播きで抽苔の心配が少ない。
- ベト病レース1～4抵抗性。

◀栽培上の注意点▶

- 高温乾燥期には伸長が鈍るので、土作り・水管理に留意する。
- 5～6月播きでは生育がこじれると抽苔の危険性があるので注意する。

サンライズの栽培時期

- ● 播種期
- 生育期
- ~~~~~ トンネルハウス雨よけ
- 収穫期

